

## 大学院博士課程の基礎的科目の体系と履修計画について

経営学研究科の博士課程の教育プログラムは、講義と演習（研究指導）からなっています。講義は、教授が学生に研究に必要な知識を与え、研究の方法を解説することによって、学生がこれらの知識と方法を体系的に習得することを目的としています。演習は、学生が研究をし、教授がそれを指導することによって、学生が講義で身につけた知識と方法を実際に研究に適用できるようにすることを目的としています。

講義には、大まかに言って、経営学研究科が育成するさまざまな分野の研究者に共通して必要な基礎教育を与えることを目的とする科目と、分野ごとの発展的な内容を教える科目とがあります。詳しく言うと、経営学研究科では、育成する研究者の分野を大まかに9つ想定し、その各分野の基礎的知識を教える科目を第1群科目と呼んでいます。他方、それぞれの分野で研究者となる上で身につけねばならない研究方法を、分野横断的に3つ想定し、その研究方法の基礎的知識を教える科目を第2群と呼んでいます。そして、これら第1群、第2群の科目を補助したり、補足したりする科目を、全て第3群科目と呼んでいます。基礎教育の講義は、第1群科目の全て、第2群科目の全てと、第3群科目の一部からなっています。それ以外の第3群科目が分野ごとの発展的な内容を教える科目です。第3群科目のうちの基礎教育を行う科目は、第1群科目と第2群科目に直接接続する内容を教える科目で、その名称はそれが接続する第1群科目、第2群科目の名称を持つ特殊研究とし、括弧でその内容を説明する名称を付して、それが基礎教育の第3群科目であることが分かるようにしてあります。発展的内容の第3群科目は、その内容を直接示す特殊研究の名称としています。

優れた研究者となるには、基礎教育による研究者としての基礎作りが大切です。そして、その基礎的能力の育成において、適切な順序でトレーニングすることが必要です。ある知識と能力を身につけるには、別の知識と能力が前提となり、それなしにはもともと希望した前者の知識や能力を身につけることが困難である、ということがしばしば起こります。優れた研究者となるには、第1群科目、第2群科目、基礎的教育を行う第3群科目を、必要とされるものについて、適切な順序で履修し、その科目が意図した能力の育成を着実に進めていくことが大切です。

そこで、以下では、平成21年度の大学院博士課程の科目のうち研究者に必要な基礎教育を行うものについて、それらがどのような体系で学生の研究能力を育成するよう設計されているのかを、簡単に説明します。ただし、研究分野によって、重きを置くべき研究者の基礎的能力が異なるので、必要とされる能力を適切にのばすことも大切です。以下では、経営学研究科で育成する研究者の9つの分野のいくつかについて、経営学研究科の科目が与える基礎教育の体系を説明します。分野ごとに、その分野の研究者となる上で必要な基礎教育で何を学ぶべきかについての考え方を述べ、それからその考え方に従った標準的履修例をフローチャートで図示します。

以下で示す講義科目と履修順序は、あくまで、その分野の研究者となる上で誰もが身につけるべき知識と手法を教授する科目名と、履修順序のひな形を示しているのであって、それで十分というわけではない、ということに注意してください。以下で掲げる科目よりも進んだ内容の講義、基礎教育でない個別研究分野に関する特別な講義を受けて、学生の1人ひとりが個人の研究能力をさらに研鑽することが望ましいことは言うまでもありません。しかし、その逆であってははいけません。以下で掲げる科目の知識なしには、進んだ内容の講義を十分に理解することはできません。

また、以下で示す科目と履修順序は、典型的な履修のためのモデルであって、これが唯一正しいものと言うのではないことに注意してください。個人の能力に応じた調整が必要であることは言うまでもありません。例えば、以下で掲げる講義を理解する準備ができていない学生は、学部講義に戻って勉強する必要があります。逆に、進んだ内容の講義、個別研究分野に関する特別な講義、あるいは準備のための科目は、経営学研究科の発展的内容を教える第3群科目で学ぶことができます。また、本研究科以外の学部・研究科（例えば本学経済学研究科、経営学部、経済学部、その他の研究科・学部）や、単位互換制度を持つ大阪大学経済学研究科、京都大学経済学研究科、京都大学経営管理大学院でも学ぶことができます。

以下では、研究者となるための基礎教育の体系を、研究の分野ごとに述べていますが、それは、優れた研究者となるのに特定の1つの分野だけを蝸壺的に履修するのがよい、という意味ではありません。むしろ逆に、将来独創的な研究を行える研究者になるには、分野横断的に研究の基礎を身につけることが重要です。特定の分野で行われる影響力の広い発見や、学際的な発見は、経営学に関する広い理解の土台の上に可能となることが多いからです。分野ごとに体系が述べられているのは、学生の1人ひとりがそれぞれの分野の基礎教育の体系を良く理解して、研究者としての広く、しかも堅固な土台を適切に構築できるようにするためです。

以下の説明をよく読み、指導教員とよく相談して、適切な履修計画にしたがって履修してください。

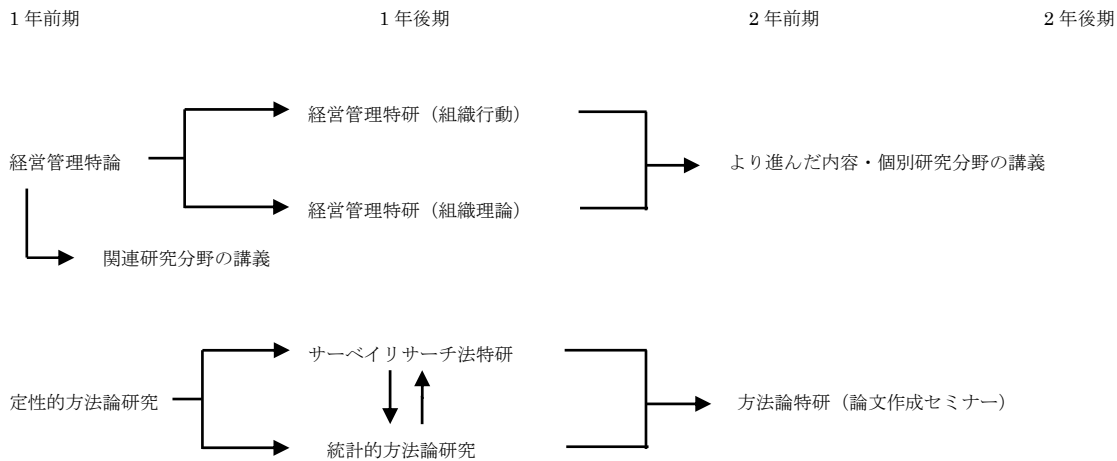
### 経営管理分野の基礎的科目の体系

1. 経営管理分野の研究者になるには、経営組織を介した管理実践にかかわる理論と方法論を学ぶ必要があります。
2. 経営管理の理論としては、まず一般的な学説を「経営管理特論」で学び、これらを補完するより基礎的な学説を「経営管理特殊研究」で学びます。「経営管理特殊研究」は、マイクロ組織論（心理学ベース）とマクロ組織論（社会学ベース）に分かれます。マイクロ組織論は、組織行動論と心理学的・社会心理学的アプローチを解説する「経営管理特殊研究（組織行動）」で学びます。マクロ組織論は、組織理論と社会的アプローチを解説する「経営管理特殊研究（組織理論）」で学びます。
3. 経営管理の方法論には、経営学にかかわる社会科学の思想を学ぶ「定性的方法論研究」と、質問紙調査の方法と統計解析の手法を学ぶ「サーベイリサーチ法特殊研究」および「統計的方法論研究」が位置づけられます。「定性的方法論研究」では、経営現象を理解するために必要となる社会科学の思想に加え、主に質的データの分析方法を学びます。「サーベイリサーチ法特殊研究」および「統計的方法論研究」では、「定性的方法論研究」で取り扱う社会科学の思想のうち、実証主義に基づいて量的データを収集し、仮説検証する手法を学びます。前者と後者は決して背反する位置づけではありませんので、注意してください（標準的履修例（その1））。
4. 「サーベイリサーチ法特殊研究」および「統計的方法論研究」については、統計解析の手法を用いた学術論文を正確に理解するための基礎知識にもなりますので、自ら質問紙調査や統計解析を行う予定がない場合であっても、必ず履修するようにしてください。より具体的には、「サーベイリサーチ法特殊研究」では、調査表の作成・データ収集・分析方法・結果の理解を学びます。「統計的方法論研究」では、統計解析の基本となる推定・検定・回帰を論じる数理統計学を学びます。また、実際に統計解析を用いた研究を行う場合には、研究に取りかかる前、あるいは研究の途中で「方法論特殊研究

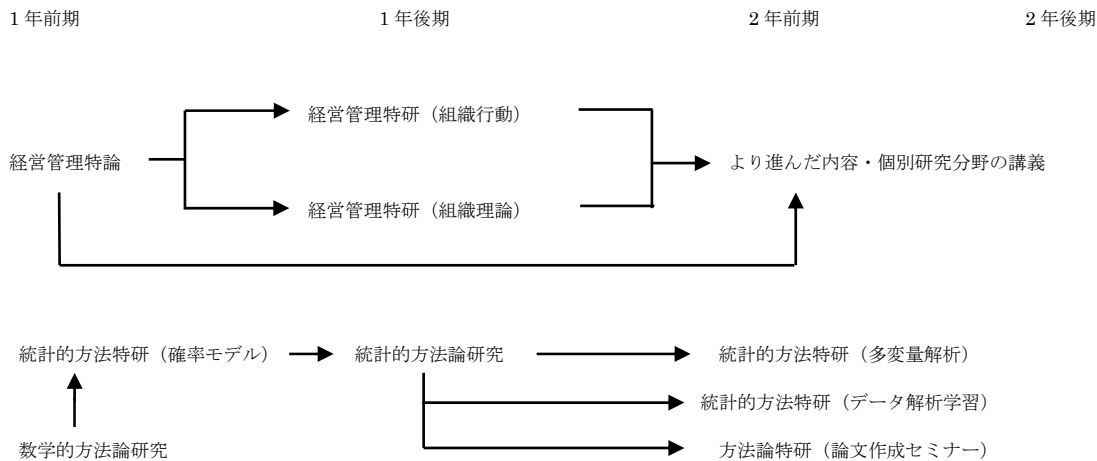
(論文作成セミナー)」を履修することが望ましいです。

5. なお、当初から数理モデルや統計的方法により重心を置いた研究を望んでいる場合には、「定性的方法論研究」に代わり、「数学的方法論研究」および「統計的方法論特殊研究(確率モデル)」を履修し、その後に「統計的方法論研究」を履修するようにしてください。さらに「統計的方法論研究」の発展的科目として用意されている「統計的方法論特殊研究(多変量解析)」と「統計的方法論特殊研究(データ解析実習)」を履修してください。ただし、「統計的方法論特殊研究(多変量解析)」と「統計的方法論特殊研究(データ解析実習)」は、適宜開講します。(標準的履修例(その2))

### 経営管理分野の標準的履修例(その1)



### 経営管理分野の標準的履修例(その2)

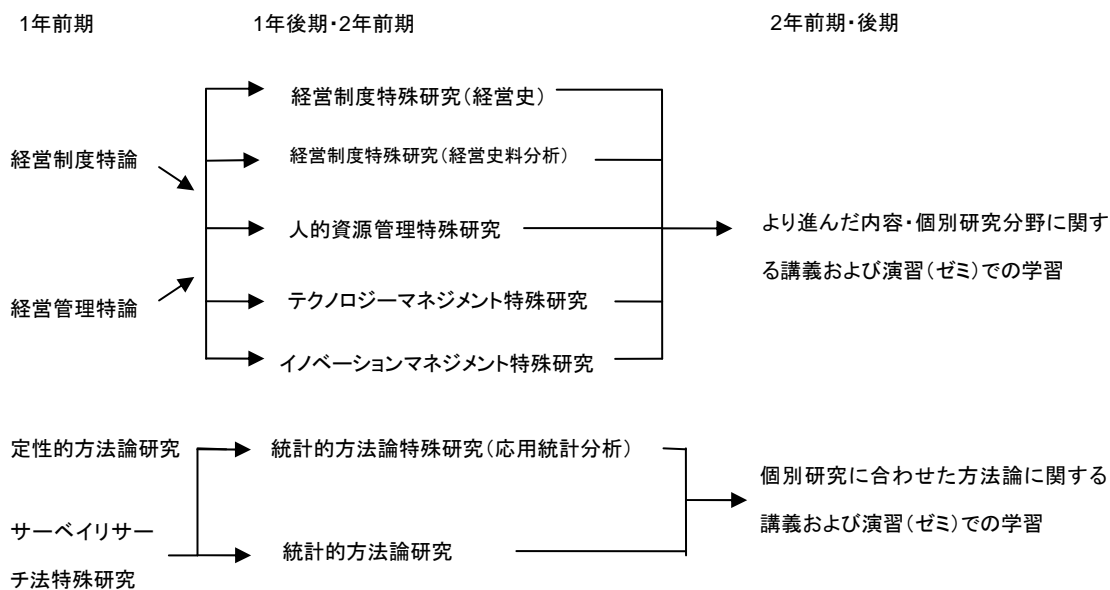


注：多変量解析とデータ解析学習の講義は、適宜開講する。

## 経営制度分野の基礎的科目の体系

1. 経営制度分野の研究者になるには、経営制度や経営管理に関する理論と歴史を学ぶ必要があります。経営制度や経営管理の理論は、実践に先行してあるわけではなく、実践があって次第に並行するようになったものです。ですから経営について深く理解するには、単に理論を知るだけでなく、経営の多様な歴史的展開についても学ぶ必要があるのです。
2. 経営制度や経営管理にかかわる理論と歴史の基礎は、「経営制度特論」と「経営管理特論」で学びます。そして、経営史についての関心が高い人は、「経営制度特殊研究（経営史）」、「経営制度特殊研究（経営史料分析）」を、人的資源管理に興味を持つ人は、「人的資源管理特殊研究」を、技術と経営との関係について深く学びたい人は「テクノロジーマネジメント特殊研究」、「イノベーションマネジメント特殊研究」を履修してください。それ以外の履修科目については指導教員と相談すると良いでしょう。また、年によって開講されていない科目もありますが、そのときには代替的な科目について指導教員と相談のうえ、決めてください。
3. 方法論については、歴史的方法、定性的（質的）方法、定量的方法と選択肢があります。できれば2つ以上の方法について、基礎だけでも理解しておくことは、研究者となるためには望ましいと考えます。方法論関連科目の標準的な履修順序例は、下図の通りです。歴史的方法と定性的方法の基礎については、「定性的方法論研究」で学びます。定量的方法については、主に、「サーベイリサーチ法特殊研究」と「統計的方法論特殊研究（応用統計分析）」「統計的方法論研究」で学びます。

### 経営制度分野の標準的履修例



注：「人的資源管理特殊研究」については、平成 25 年度は開講されない。

## 決定分析分野の基礎的科目の体系

1. 決定分析分野の研究者になるには、決定分析の理論と実証を学んだ上で、市場経済分析やファイナンス等の応用分野の理論を学ぶ必要があります。
2. 決定分析の理論は、
  - ・ 選択理論
  - ・ ゲーム理論
  - ・ 契約理論

からなっています。この3つを理解するには、この順序で学ぶ必要があります。選択理論は「決定分析特論」で、ゲーム理論は「決定分析特殊研究（ゲーム理論）」で教えます。他方、契約理論は、適宜開講する「決定分析特殊研究（契約理論）」で教えます。

「決定分析特論」で教えられる3つの理論分野のうち、選択理論は、人間の合理性モデルの標準型であって、経営学の様々な分野で用いられるので、分野によらず経営学研究科の多くの学生が学ぶべき内容です。決定分析分野の研究者になるには、3つの理論を全て学ぶ必要があります。

3. 決定分析分野の研究者になる上で学ぶべき応用分野の主なものは3つあります。第1は市場経済の理論です。市場経済の理論は、その基礎を「市場経済分析特論」で教え、さらに高度な内容を、市場と戦略について「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で教えます。また、一般均衡理論の進んだ内容を学ぶ必要もあります。

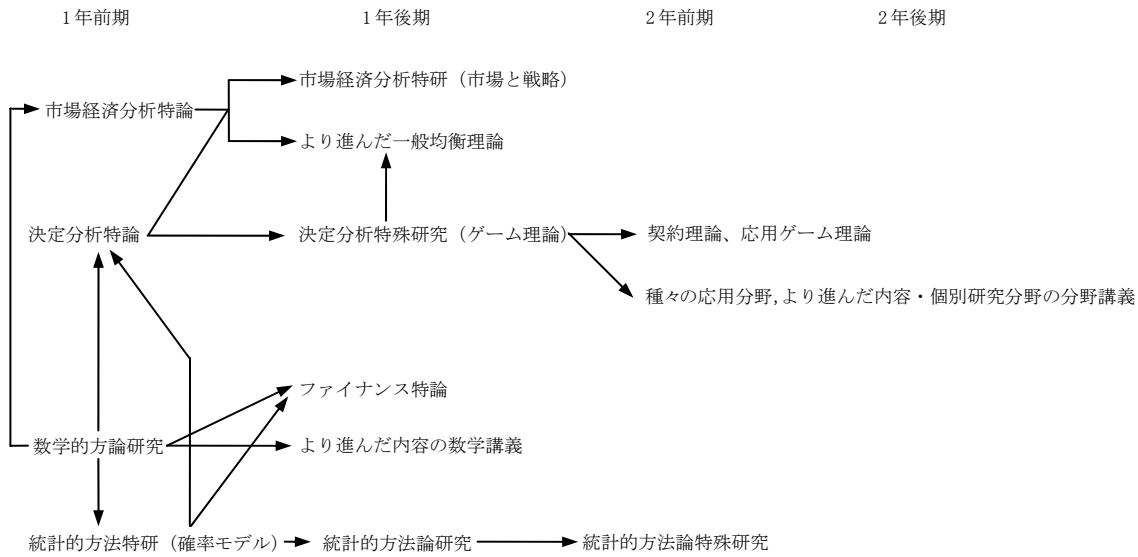
決定分析分野の研究者になる上で学ぶべき第2の応用分野はファイナンスの理論です。ファイナンスの理論は、「ファイナンス特論」で教えます。

第3の応用分野は、市場取引やファイナンスに限らない、さまざまな取引や制度をゲーム理論で研究する応用ゲーム理論全般です。

決定分析分野の研究者になるには、この3つ以外にも多岐にわたる応用分野を網羅的に学ぶのが望ましいでしょう。そのためには、本学経済学研究科、大阪大学経済学研究科、京都大学経済学研究科等で教えられている決定分析の応用分野の科目を積極的に履修することが望まれます。

4. 決定分析分野の研究者になる為に学ぶべき実証は、推定・検定・回帰を論じる数理統計学を教える「統計的方法論研究」です。それを理解する前提として、「統計的方法論研究」の前に「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」で確率モデルを教えます。実際に実証分析ができるようになるには、「統計的方法論研究」で教えられる基礎的内容を修得した上で、さらに、さまざまな実証分析の手法を教える「統計的方法論特殊研究（応用回帰分析）」、「統計的方法論特殊研究（同時方程式分析）」、「統計的方法論特殊研究（非集計データ分析）」等を履修することが必要です。
5. 2. と 3. で言う理論を教える科目体系も、4. で言う実証を教える科目体系も、ともに、「数学的方法論研究」が教える数学の知識の上に可能となります。その上で、さらに、「数学的方法論研究」の範囲を超えた、進んだ内容の数学を学ぶことが望ましい。そのためには、本学理学部等で教えられている数学科目を積極的に履修することが望まれます。
6. 2. で言う理論を教える科目体系の3つの科目はいずれも、それを理解する上で、「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」で教えられる確率モデルの知識があることが望ましい。

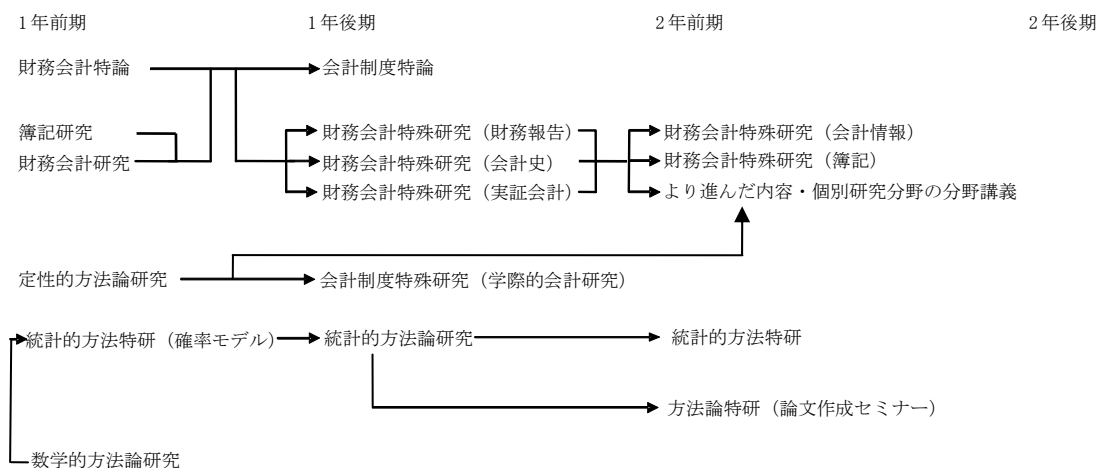
### 決定分析分野の標準的履修例



### 財務会計分野の基礎的科目の体系

1. 財務会計特論は、現在の財務会計の理論と制度の歴史的経緯と現状、そして今後の課題と展望を取り扱います。講義は、学部レベルの基礎知識を前提として進めますので、このレベルに達していない受講者は、まず第5群科目の「簿記研究」又は「財務会計研究」を履修し、基礎知識を習得する必要があります。
2. 財務会計特論は、企業外部への報告のための利益の測定と報告に関する理論の考察に焦点を絞りますので、利益の測定と報告に関する研究の関連領域ともいべき監査、国際会計及び税務会計までは時間的に言及する余裕がありません。しかし、監査、国際会計及び税務会計に関する理論と制度に関する知識の習得が、財務会計を更に深く理解するために大いに役立ちます。そこで、財務会計特論を習得したうえで、監査、国際会計及び税務会計を扱う「会計制度特論」もあわせて履修することを強く推奨します。
3. 財務会計特論で学習した内容の理解を前提として、第3群科目の「財務会計特殊研究（簿記）」「財務会計特殊研究（財務報告）」「財務会計特殊研究（会計史）」又は「財務会計特殊研究（会計情報）」などで、それぞれの分野における最先端の成果と展望を教えます。
4. 財務会計に関する研究方法には、法律解釈のほかに、歴史研究、理論（モデル）分析、記録資料に基づく実証研究、及び実験研究など多様な方法が用いられています。そこで、第2群科目については幅広い履修が望まれます。

### 財務会計分野の標準的履修例



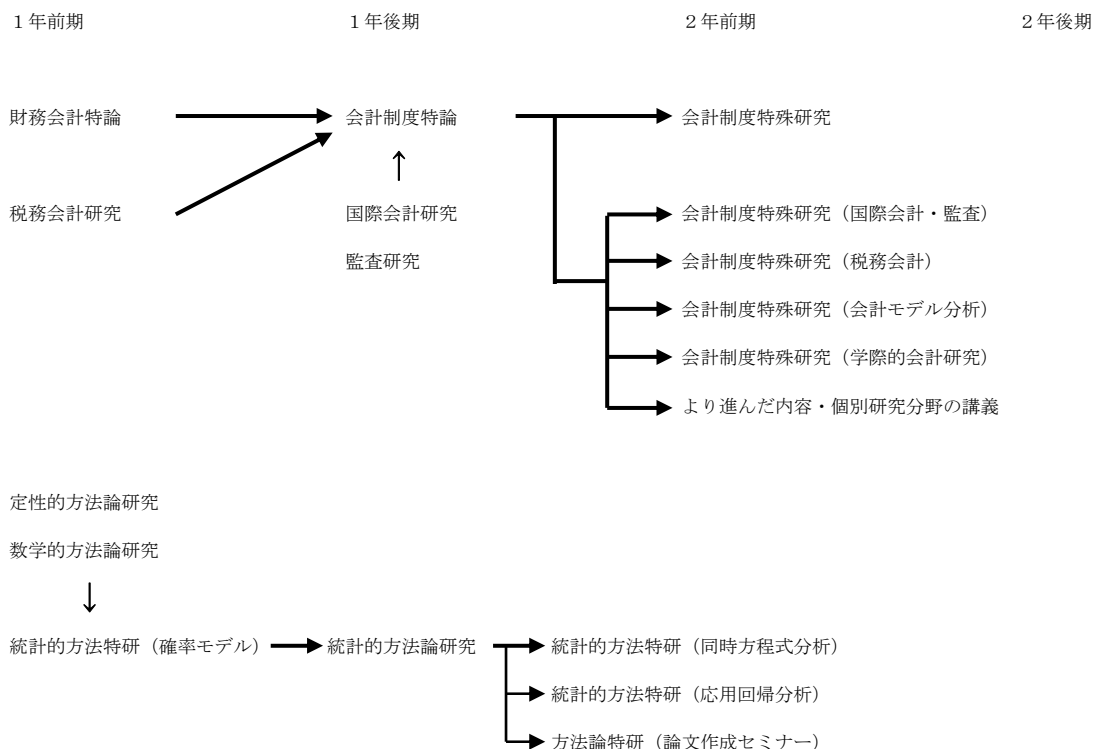
注：第2群科目（定性的方法論，統計的方法論，数学的方法論）は，指導教員と話し合っ，各自の研究方向に合った方法論を選ぶこと。

統計的方法特研の開講時期と講義内容は年度ごとに変わるので，講義要綱で確認すること。

### 会計制度分野の基礎的科目の体系

1. 会計制度特論は，監査，国際会計及び税務会計に関するわが国及び海外の制度（国際的ルールを含む）の現状，課題及び展望を取り扱います。講義は，学部レベルの基礎知識を前提として進めますので，このレベルに達していない受講者は，まず第5群科目の「監査研究」「国際会計研究」及び「税務会計研究」を履修し，基礎知識を習得する必要があります。
2. 会計制度特論は制度に焦点を絞りますので，簿記や財務会計に関する原理や実務の高度な内容までは時間的に言及する余裕がありません。しかし，制度の理解には原理や実務の理解が不可欠であることは言うまでもありません。そこで，これらを扱う「財務会計特論」もあわせて履修する必要があります。
3. 会計制度特論で学習した監査，国際会計及び税務会計の制度的枠組みの理解を前提として，第3群科目の「会計制度特殊研究（国際会計・監査）」又は「会計制度特殊研究（税務会計）」で，それぞれの分野における理論又は実証の分析の最先端の成果と展望を教えます。
4. 会計制度に関する研究方法には，法律解釈のほかに理論（モデル）分析，記録資料に基づく実証研究及び実験研究など多様な方法が用いられています。そこで，第2群科目については幅広い履修が望まれます。

## 会計制度分野の標準的履修例



注：ただし、開講科目と講義内容は年度ごとに変わるので講義要綱で確認すること

## 管理会計分野の基礎的科目の体系

1. 管理会計分野の研究者になるには、経営管理及び管理会計にかかわる理論と実証を学ぶ必要があります。
2. 管理会計の前提として、経営管理に関する基礎知識は、「経営管理特論」で学びます。
3. 管理会計に関する基礎知識は、「管理会計特論」で教えます。さらに高度な内容を、「管理会計特殊研究 (コスト・マネジメント)」、「管理会計特殊研究 (マネジメント・コントロール)」、「会計制度特殊研究 (学際的会計研究)」で学びます。「管理会計特殊研究 (マネジメント・コントロール)」及び「管理会計特殊研究 (コスト・マネジメント)」(いずれも、適宜開講)においては、先進的な管理会計実務や管理会計の実証的研究に向けた理論や方法論などについて教えます。「会計制度特殊研究 (学際的会計研究)」では、社会学に基づく多様なパースペクティブについて学び、管理会計研究への適用を検討します。いずれの特殊研究についても、「管理会計特論」を履修済みであること、もしくは並行して履修することが望まれます。
4. 実証は、互いに異なる2つの方法を教えます。管理会計分野の研究者となるには、この2つの方法の双方を学ぶ必要があります。

第1は、質的 (定性的) 方法です。これは、「定性的方法論研究」で教えます。この科目では、社会現象を解明するための代表的な複数の定性的研究アプローチを教えます。

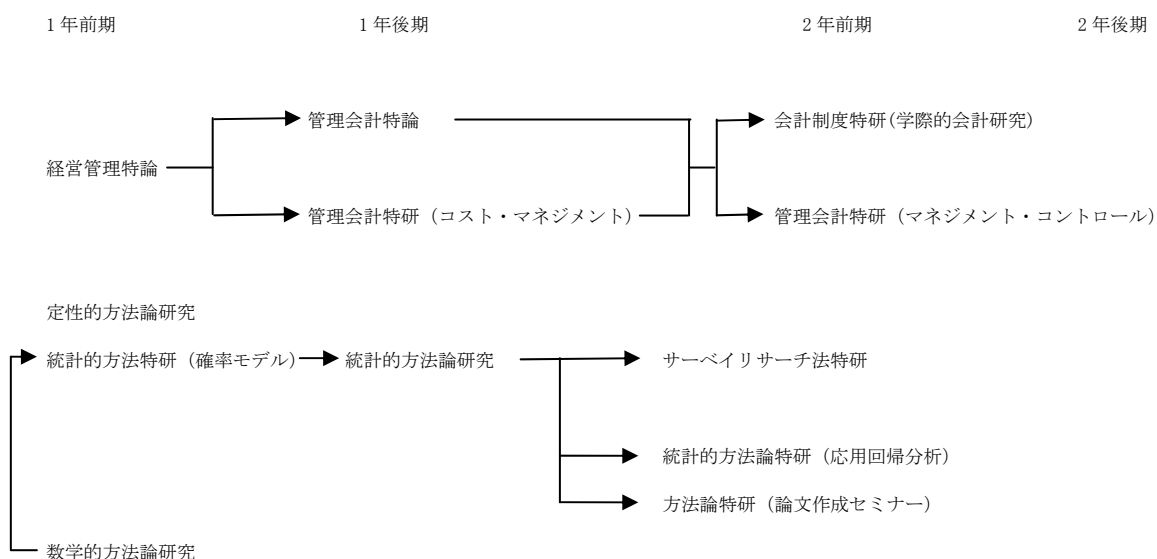
第2は、量的 (定量的) 方法です。これは主に、「サーベイリサーチ法特殊研究」と「統計的方法論研究」で教えます。これらの科目では、調査データや統計データを数量的に分析するために、実



証主義に基づいて、データを収集し仮説検証するアプローチを教えます。定量的アプローチは、もっぱら統計的方法に基づいて行なわれるために、調査方法に関して一応の理解が得られた後に、統計的方法を学ぶことが求められます。

「サーベイリサーチ法特殊研究」では、調査表の作成・データ収集・分析方法・結果の理解について教えます。「統計的方法論研究」では、統計解析の基本となる推定・検定・回帰を論じる数理統計学を教えます。数理統計学を理解する前提として、「統計的方法論研究」に先立って「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」を履修することが望ましいです。そして、「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」を理解した上で、「統計的方法論特殊研究（応用回帰分析）」、「方法論特殊研究（論文作成セミナー）」を学ぶことで目的が達せられます。

### 管理会計分野の標準的履修例



### マーケティング分野の基礎的科目の体系

1. マーケティング分野の研究者になるには、マーケティングに関する理論と実証を学ぶ必要があります。
2. マーケティングに関する理論は、その基礎を「マーケティング特論」で教え、さらに高度な内容を、「マーケティング特殊研究（顧客価値）」と「マーケティング特殊研究（製品戦略）」で教えます。
3. 実証は、互いに異なる2つの方法を教えます。マーケティング分野の研究者となるには、この2つの方法の双方を学ぶ必要があります。

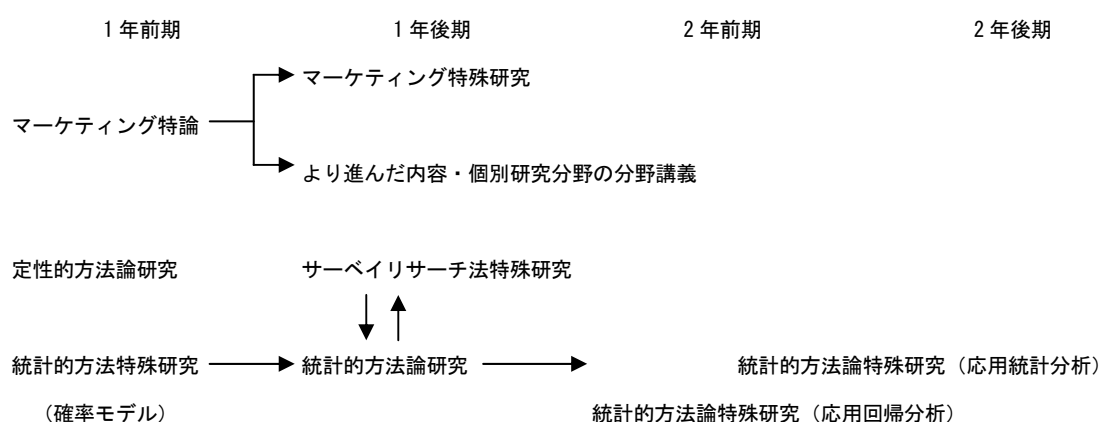
第1は、質的（定性的）方法です。これは、「定性的方法論研究」で教えます。この科目では、社会現象を解明するための代表的な複数の定性的研究アプローチを教えます。

第2は、量的（定量的）方法です。これは主に、「サーベイリサーチ法特殊研究」と「統計的方法論研究」で教えます。これらの科目では、調査データや統計データを数量的に分析するために、実証主義に基づいて、データを収集し仮説検証するアプローチを教えます。定量的アプローチは、もっぱら統計的方法に基づいて行なわれるために、調査方法に関して一応の理解が得られた後に、統計的方法を学ぶことが求められます。

第2のアプローチに関連して、とくにマーケティング分野における数理モデルによる研究アプローチを修めることを希望する場合は、「数学的方法論研究」を履修し、市場経済分析を履修することが勧められます。

「サーベイリサーチ法特殊研究」では、質問紙調査の設計・データ収集・分析方法・解釈について教えます。「統計的方法論研究」では、統計解析の基本となる推定・検定・回帰を論じる数理統計学を教えます。数理統計学を理解する前提として、「統計的方法論研究」に先立って「統計的方法特殊研究（確率モデル）」を履修することが望ましいと言えます。また統計的方法を研究に用いる実際を教える授業として「統計的方法論特殊研究（応用統計分析）」が開講されるので、修士論文の作成のために履修することが勧められます。

#### マーケティング分野の標準的履修例

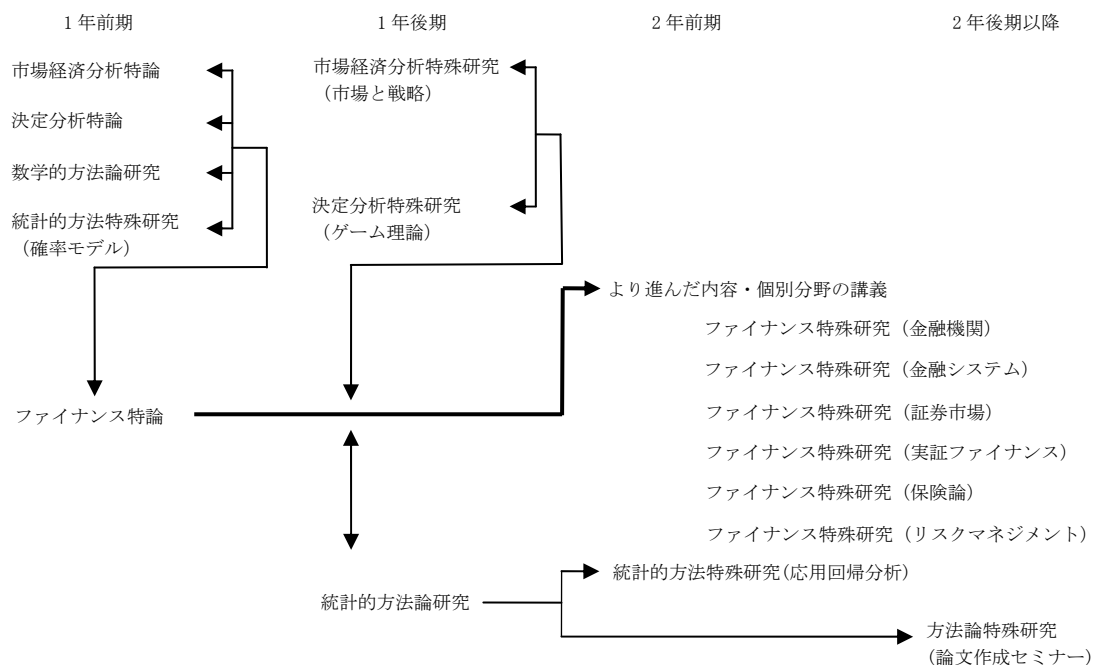


#### ファイナンス分野の基礎的科目の体系

1. ファイナンス分野の研究者になるには、市場経済の理論と実証を学び、それに加えてファイナンスの理論と実証を学ぶ必要があります。
2. 市場経済の理論は、その基本を「市場経済分析特論」で教え、さらに高度な内容を、市場と戦略について「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で教えます。ファイナンス分野の研究者になるには、「市場経済分析特論」、「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」を全て学ぶことが推奨されます。
3. 実証は、推定・検定・回帰を論じる数理統計学を教える「統計的方法論研究」が基本となります。それを理解する前提として、統計的方法論研究の前に「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」で確率モデルを教えます。他方、数理統計学の内容だけでは、実際に市場経済の実証分析を理解することはできません。なぜなら、市場経済という特定の研究対象の実証に必要な統計的方法が、多様にあるからです。それらを、数理統計学の理解を前提として、「統計的方法論特殊研究(応用回帰分析)」で教えます。また、これらの分析手法を用いて論文作成の実践力を養成する「第3群方法論特殊研究(論文作成セミナー)」も適宜開講します。
4. 2.で言う理論を教える科目体系も、3.で言う実証を教える科目体系も、ともに、「数学的方法論研究」が教える数学の知識の上に可能となります。

5. 2. で言う理論を教える科目体系のうち、「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で教える内容を理解するには、選択理論を教える「決定分析特論」や「決定分析特殊研究（ゲーム理論）」の知識があることが求められます。
6. ファイナンスの理論は、その基本をファイナンス特論で、応用を各「ファイナンス特殊研究」で教える。「ファイナンス特論」の内容を理解するには、
  - ・市場経済の基礎理論を教える「市場経済分析特論」の知識
  - ・選択理論を教える「決定分析特論」の知識
  - ・確率モデルを教える「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」の理解
 の3つがあることが望ましいと言えます。
7. ファイナンスの実証は、「統計的方法論特殊研究」、各「ファイナンス特殊研究」で教えます。ファイナンスの実証を理解する前提は、「ファイナンス特論」が教えるファイナンス理論の理解と、「統計的方法論研究」が教える数理統計学の知識です。

#### ファイナンス分野の標準的履修例



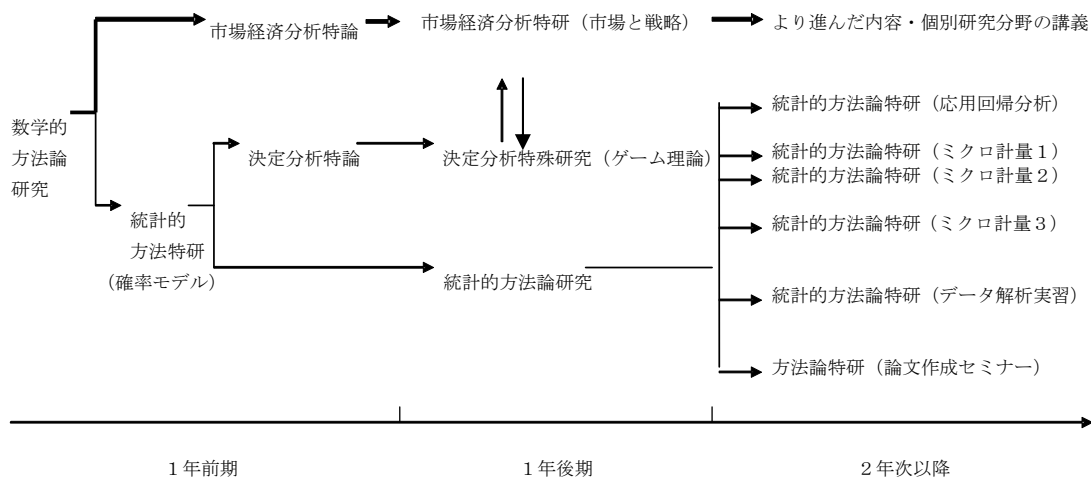
#### 市場経済分析分野の基礎的科目の体系

1. 市場経済分析分野の研究者になるには、市場経済の理論と実証を学ぶ必要があります。
2. 市場経済の理論は、ミクロ経済学と産業組織論が基本となります。その基礎から中級レベルの内容を「市場経済分析特論」で教え、上級レベルの内容を「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で教えます。このうちで市場経済の基礎理論を教える「市場経済分析特論」は、経営学研究の基礎の性格をもつものであり、専門分野によらず経営学研究科の多くの学生が学ぶべき科目です。
3. 市場経済の実証は、推定・検定・回帰に関する数理統計学を教える「統計的方法論研究」が基本となります。それを理解する前提として、「統計的方法論研究」の前に「統計的方法論特殊研究（確率モ

デル)」で確率モデルを教えます。しかし、「統計的方法論研究」の内容だけでは、市場経済の実証分析を十分にカバーすることはできません。なぜなら、市場経済の実証分析に必要な多様な統計的方法があるからです。このため、「統計的方法論研究」の理解を前提とした上で、統計的方法論特殊研究（応用回帰分析）を履修するようにしてください。（2年前期）そして更に2年後期に、同時方程式分析、パネルデータ分析、非集計データ分析を個別に「統計的方法論特殊研究（マイクロ計量）」という科目で教えます。これらの特殊研究は、適宜開講します。また、これらの分析を実際に行う「統計的方法論特殊研究（データ解析実習）」も適宜開講します。

4. 2.で言う理論を教える科目体系も、3.で言う実証を教える科目体系も、ともに、「数学的方法論研究」が教える数学の知識の上に成り立っています。
5. 2.で言う理論を教える科目体系のうち、「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で教える上級レベルの内容を理解するには、選択理論を教える「決定分析特論」の知識があることが望ましいといえます。さらに、「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」の理解にとっては、ゲーム理論を教える「決定分析特殊研究（ゲーム理論）」の理解があることが望ましいでしょう。

市場経済分析分野標準的な履修例)



注：図において、太線はこの研究分野の中心的な科目の履修順序を示す。

なお、統計的方法（マイクロ計量）については、開講時期と講義内容が年度ごとに変わるので、講義要項で確認すること。